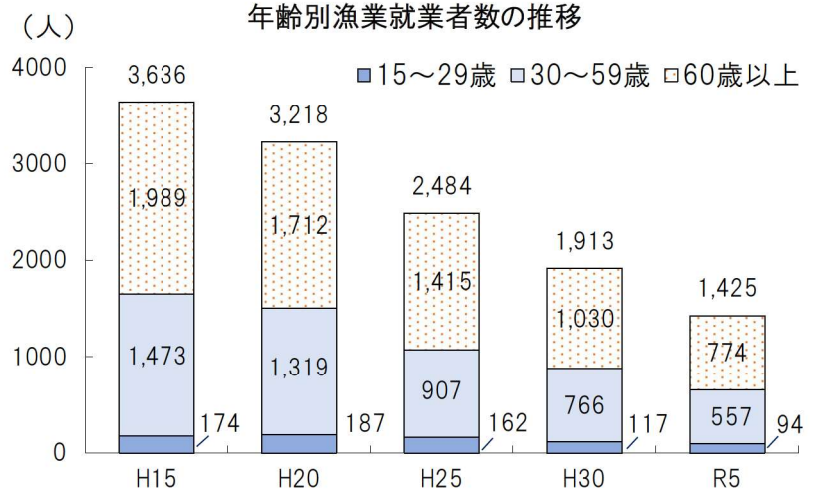


2. 漁業生産構造の動向

① 漁業就業者

令和5年の就業者数は1,425人で、平成15年と比べて2,211人(60.8%減)、前回センサス(平成30年)と比べて488人(25.5%減)減少した。年齢階層別では、29歳以下が94人(6.6%)、30歳～59歳が557人(39.1%)となっているが、60歳以上は774人で全体の54.3%を占め、高齢化が進行している。



資料：農林水産省「漁業センサス」

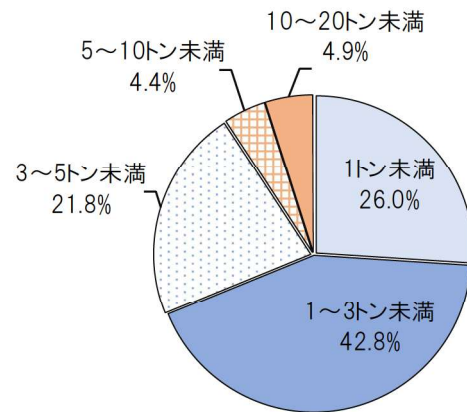
② 漁船隻数

海面漁業・養殖業に使用される漁船は、平成21年に6,000隻を下回り、それ以降も減少傾向が続いている。

令和7年12月末現在における本県の登録漁船数は3,790隻で、前年に比べて3.5%減少している。このうち最も隻数が多いのは1～3トン階層で、1,624隻(42.8%)を占め、次いで船外機を中心とする1トン未満階層が986隻(26.0%)、3～5トン階層が827隻(21.8%)となっている。

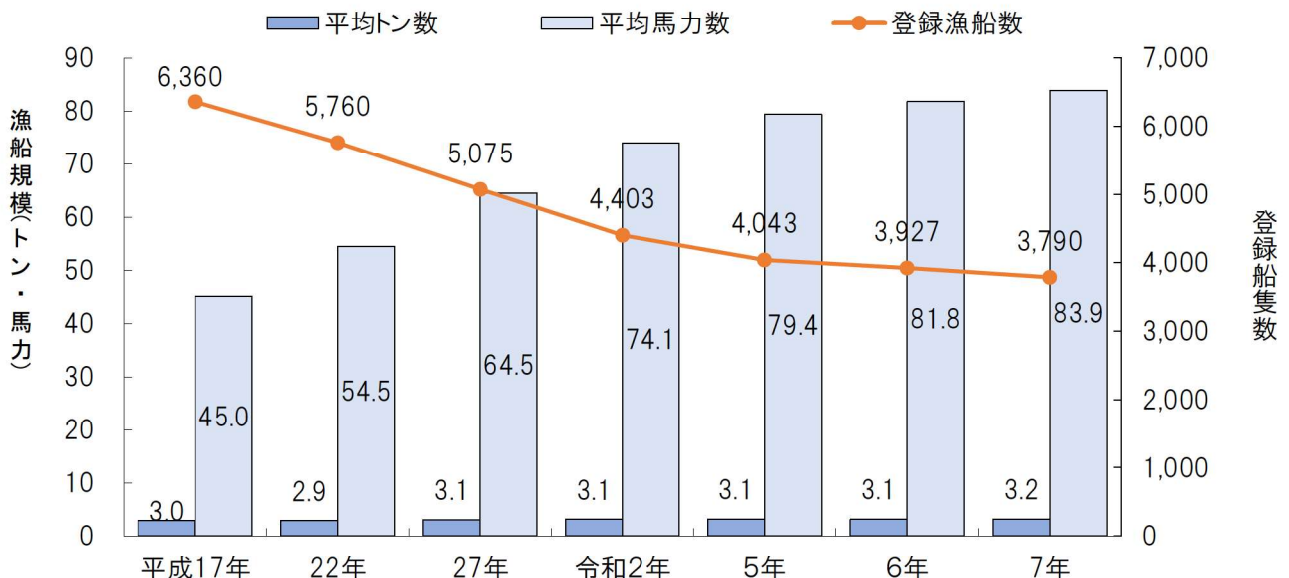
総トン数は12,120トンと前年に比べて1.1%減少した。1隻当たりの平均トン数は概ね横ばい、平均馬力数は微増であった。

漁船のトン数階層別構成比(令和7年)



資料：水産課調べ

漁船隻数・規模の推移



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」